

鉄砲館企画展

上妻家

文書展

文書が語る、地域の歴史

令和元年  
7/27(土) ~ 9/24(火)

島主である種子島氏の筆頭家老であった上妻氏。そのお尻敷からは、貴重な古文書類が多数発見され、鉄砲館では修復・復元作業を進めています。今回は、修復・復元を終えた100点の資料を中心に公開し、古文書を通して地域の歴史を紹介します。

会場 鉄砲館



主催 種子島開発総合センター「鉄砲館」 開館時間 8:30~17:00(入館は16:30まで) TEL. 0997-23-3215  
※会期中は毎日開館 上妻家文書展の観覧は入館無料

令和元年度 種子島開発総合センター「鉄砲館」特別展

# 上妻家文書展

関連資料

会期 7/27[土] — 9/24[火]

会場 種子島開発総合センター「鉄砲館」

種子島島主である種子島氏の筆頭家老であった上妻氏。その上妻家の住宅を、平成28年(2016年)に西之表市が取得し、住宅内の整理を行う中で、数多くの貴重な古文書類が発見されました。

鉄砲館では、その歴史的に大変貴重な古文書類の整理・修復・復元作業に着手し、種子島の歴史の研究を進めています。

今回は、修復・復元を終えた約400点の資料を中心に公開し、中・近世の種子島の動静や県指定文化財「種子島家譜」の記述を裏付ける資料などを通して、古文書類から郷土の歴史の歩みを知っていただければと思います。

●種子島家・上妻家歴代当主●

代数	名	生没年	年齢	時代	城
初代	信基	不詳	不知		
		不詳	82		
		不詳	不知		
		不詳	不知		
		生	不知	北朝	
		文和元年(1352年)没	不知	室町	本城
		生	不知	北朝	
		応永3年(1396年)没	不知	北朝	
2代	信實	不詳	不知		
		不詳	不知		
3代	信真	不詳	不知		
		不詳	不知		
4代	真時	不詳	不知		
		不詳	不知		
5代	時基	不詳	不知		
		生	不知		
6代	時光	不詳	不知		
		生	不知		
7代	頼時	不詳	不知		
		生	不知		
8代	清時	不詳	不知		
		生	66		
9代	時長	不詳	不知		
		生	36		
10代	頼時	不詳	不知		
		生	58		
11代	時氏	不詳	不知		
		生	68		
12代	忠時	不詳	不知		
		生	69		
13代	忠時	不詳	不知		
		生	65		

上妻家	
初代	隆宗
2代	家久
3代	隆定
4代	隆剛
5代	経家
6代	家房
7代	房直
8代	家宗
9代	家真
10代	家盛
11代	家兼
12代	家教
13代	家俊
14代	家範
15代	家貞
16代	家信
17代	家幸
18代	宗尚
19代	宗義
20代	家員
21代	家房
22代	家整
23代	右直
24代	家統

代数	名	生没年	年齢	時代	城	上妻家
14代	時亮	生	52			24代
		没	7			
15代	時次	生	7			25代
		没	7			
16代	久時	生	44			26代
		没	16			
17代	忠時	生	43			27代
		没	5			
18代	久時	生	94			28代
		没	7			
19代	久基	生	78			29代
		没	4			
20代	久道	生	94			30代
		没	9			
21代	久勢	生	67			31代
		没	12			
22代	久照	生	55			32代
		没	11			
23代	久道	生	37			33代
		没	12			
24代	久珍	生	23			34代
		没	10			
25代	久尚	生	29			35代
		没	15			
26代	時丸	生	11			36代
		没	9			
27代	守時	生	51			36代
		没	4			
28代	時望	生				36代
		没				
29代	時亮	生				36代
		没				

上妻家の始祖は「天智天皇より大職官吏冠に任じられ、藤原姓を賜り、鎌足公を初祖」としている。

- 初代 隆宗 — 国司に任じられ、筑後国（現在の福岡県南西部）に下り、上妻郷に居を定める。家紋に日の丸三つ扇を用いる。
- 2代 家久 — 上妻姓を名乗る。
- 3代 隆定
- 4代 隆則
- 5代 経家
- 6代 家房
- 7代 房直
- 8代 家宗 — 筑後の上妻家に伝わる「上妻文書」によると、文治2年（1186年）上妻庄地頭職に補せられ、建長4年（1252年）上妻庄内地久志部・今弘・光友。豊福等7ヶ所の地頭職に補任されたとある。
- 9代 家真 — 種子島の地頭大浦口氏（鎌倉在）に命じられ、種子島代官となり、種子島へ下る。その後、藤原信基公（平清盛の曾孫）が、種子島を含む南海12島の領主となり、種子島へ渡る。種子島代官であった家真は、筑後国へ帰ることとしていたが、信基公の強い願いにより、種子島に留まり、家臣として領地50町（15万坪、東京ドーム約10個分相当）を与えられる。
- 10代 家盛
- 10代 家盛
- 11代 家兼
- 12代 家教
- 13代 家俊
- 14代 家範

- 15代 家貞 — 第6代島主時充公より上妻家は永く輔佐（補佐）の臣であることの文書を賜う。
- 16代 家信 — 貞治5年(1366年)4月16日、第7代島主頼時公に従い肥後州へ従軍し、戦功をあげるも戦死。年齢35歳。
- 17代 家幸
- 18代 宗尚
- 19代 宗義
- 20代 家員
- 21代 家房 — 文正・応仁年間(1466年～1469年)の頃、法華宗に帰依し、改宗する。
- 22代 家雅 — 永正8年(1511年)、第12代島主忠時公に仕え、島津忠治公の戦に従軍、戦功をあげる。
- 23代 右直 — 天文8年(1539年)、第13代島主恵時公に仕え、島津忠治公の市来平城攻めに従軍、戦功をあげる。
- 24代 家統 — 天文12年(1543年)3月、大隅半島南部の祢寝氏が200名余りの兵を率いて国上浦田より攻め入る。第13代島主恵時公は、息子の直時(後の時亮)を残し屋久島へ逃亡。直時は赤尾木の内城を守り防戦するも、降伏。祢寝氏に屋久島を譲渡した。しかし、翌年には屋久島の祢寝軍を攻め、屋久島を取り戻す。  
○家統は肥後周防介盛家から兵法を学び天文年中(1532年～1555年)に免状を得る。

**天文12年(1543年)8月—鉄砲伝来**

- 25代 家長 — 文禄元年(1592年)、豊臣秀吉が朝鮮征伐を行う。島津義弘公より第16代島主久時公に、名護屋(佐賀県唐津市)で陣屋を築造するよう命が下る。1月下旬、家長は歩兵60～70人を率いて出発し、2月中旬名護屋へ到着する。すると、秀吉公が近いうちに訪問されるとのことで、急いで進めるも、人員不足で行き詰ってしまう。それを聞き知った筑後の上妻鎮勝が、歩兵約200名を引き連れ家長を助け、3日にして陣屋70棟を造営し、種子島家の面目は保たれることとなった。  
4月上旬、諸将が朝鮮へ渡海する中で、家長が種子島に帰島すると、島津義弘公に属して第16代島主久時公も渡海する命を受ける。しかし、種子島勢は朝鮮には出兵せずとの考えが主流であった。家長は大変驚き、「その命に背いて朝鮮へ渡らなければ、討伐あるいは改易あるいは諸帯没収等、罪人として多くの士人が不義不忠と思われるだろう。」と島主久時を諫めた。その後、種子島勢は朝鮮へ渡り、軍功に励んだ。

文禄4年(1595年)の秋、第16代島主久時公が知覧院へ移るのにお供する。

慶長元年(1596年)、知覧の家が火事になり文書等紛失。

慶長4年(1599年)の夏、島主久時公種子島へ戻る。家長も戻る。

26代 家直 - 16歳にして朝鮮出兵に参加。その後も第16代島主久時公の率いる軍に参加。

27代 秀隆 - 家長(第25代)の時に、火災で文書が燃えてしまったため、正保・慶安年間(1645年~1651年)、筑後の上妻家と秀隆は手紙をやり取りし、系図の写しを手に入れる。また、家の日記や家長が書記したものなどを推定すると、何代にも渡る武功の数々が伝えられていることがわかった。

寛文元年(1661年)4月、鹿児島を去り、種子島に移り、**森の嶺**に住む。

28代 隆直 - 承応元年(1652年)、種子島栄時(後の久時)が江戸へ参勤されたので、翌年、江戸から戻られる際にお供する。明暦3年(1657年)庄内圭、垂水圭、島津大膳久憲主、第18代島主久時公の4人の年始の祝いの使いとして江戸に参る。1月10日芝邸(島津家の江戸藩邸)へ拝謁し、島津綱久公と虎壽公(後の綱貴)に金200を賜り、14日に江戸を去る。

萬治3年(1660年)5月、第18代島主久時公が島津光久公の「官暇を謝するの使」として芝邸(島津家の江戸藩邸)へ参るのにお供する。

寛文2年(1662年)7月・寛文6年(1666年)6月、第18代島主久時公が江戸へ参勤されるのにお供する。

寛文12年(1672年)3月と延宝元年(1673年)6月、第18代島主久時公のお供として江戸へ行く。

○第12代島主忠時の時代に城館が火災にあい、さまざまな記録を焼失していたので、第18代島主久時の命により、その焼失した記録類の復元を命じられた。隆直は、島内の各家々の記録や写本を調査・研究し、島主種子島家や蔗流家の系図の復元を見事に行った。それは、寛文11年(1671年)から延宝5年(1677年)のことであった。

延宝6年(1678年)12月、鹿児島府を辞め、種子島へ帰り、父秀隆宅の**森の嶺**に住む。

延宝7年(1679年)、父秀隆が家老職を辞めたのでその職を継ぐこととなる。(当時56歳)

○第18代島主久時公より脇刀を賜った。この脇刀は後世への重宝とし、秘蔵とするよう命を受けた。

延宝7年(1679年)4月、第18代島主久時公が江戸へ参勤されたので、翌年間8月、下向にお供する。

貞享3年(1686年)閏3月、第18代島主久時公は江戸へ行かれたので、翌年12月、下向にお供する。

29代 真純 - 元禄16年(1703年)7月、家老となる。(当時29歳)

- 30代 時雄 - 真雄  
寛延元年(1748年)2月13日、家老となる。(当時39歳)  
**寛延4年(1751年)2月、上妻家住宅上棟。**  
宝暦6年(1756年)2月15日、上妻家代々における種子島家へのすばらしい貢献の数々を賞して、「時雄」の名を賜り、改名する。  
宝暦9年(1759年)1月6日、島津久芳公へ従い江戸へ。5月20日に帰島する。
- 31代 宗弘 - 鎌倉流馬術を川上主右工門親純に学び、明和5年(1768年)3月2日、習得。  
天明6年(1786年)5月18日、家老となる。(当時37歳)  
射術を学び、寛政6年(1794年)6月、習得。
- 32代 宗愛 - 射術を学び、享和3年(1803年)3月、習得。  
同年10月15日、家老となる。(当時28歳)
- 33代 右武 - 馬術を学び、文政7年(1824年)2月13日、習得。
- 34代 宗徳 - 右武が若くして亡くなったため、二男であったが家督を継ぐこととなる。
- 35代 宗恕
- 36代 宗之



●上妻家●

代数	名	初名 称号等	生没年	法号	年齢	主な出来事
初代	隆宗	修理太夫 筑後守				国司として筑後国の上妻郷に居を定める。 家紋に日の丸三つ扇を用いる。
2代	家久	左衛門尉				上妻姓を名乗る。
3代	隆定	左兵衛尉				
4代	隆則					
5代	経家					
6代	家房					
7代	房直					
8代	家宗					
9代	家真	三郎左衛門尉 阿波守				種子島代官となり、種子島へ渡る。
10代	家盛	式部太夫				
11代	家兼	十郎太夫				
12代	家教	阿波守				
13代	家俊	式部太輔				
14代	家範	左京亮				
15代	家貞	十郎太夫				第6代島主時充公より上妻家は永く補佐の臣であることの文書を賜る。
16代	家信	九郎左衛門	元徳3年(1331年)誕生 貞治5年(1366年)死去	淨安	35歳	※系図に享年あり。そこから誕生年を記載。
17代	家幸	阿波守				
18代	宗尚	九郎左衛門	応永16年(1409年)8月22日死去	心興良英禪定門		
19代	宗義	式部少輔	正長元年(1428年)3月11日死去	道泉禪定門	36歳	
20代	家員	阿波守	宝徳3年(1451年)12月10日死去	淨仁		
21代	家房	阿波守	明応3年(1494年)1月7日死去	蓮妙		法華宗に改宗。
22代	家雅	七兵衛尉 阿波守		淨蓮		
23代	右直	式部太輔 阿波守	明応元年(1492年)誕生 天文11年(1542年)12月3日死去	蓮泉	51歳	

24代	家統	九郎左衛門 阿波守 松庵	大永5年(1525年) 誕生 天正18年(1590年)11月12日 死去	法淨	66歳	袿衣戦争
25代	家長	彌九郎 九郎左衛門 阿波守 七兵衛 入木	永禄元年(1558年) 誕生 寛永13年(1636年)1月17日 死去	隆淨	79歳	名護屋(佐賀県唐津市)に陣屋を建てる。 朝鮮出兵
26代	家直	彌九郎	天正9年(1581年) 誕生 慶長4年(1599年)12月8日 死去	宗清	19歳	朝鮮出兵 庄内の乱
27代	秀隆	家貞 金千代 下総 三次 惣左衛門	慶長11年(1606年)6月4日 誕生 貞享元年(1684年)7月8日 死去	誠信院宗利居士	79歳	系図に葬の蹟が初めて記される。
28代	隆直	金千代 慶二郎 才之左 七兵衛	寛永9年(1632年)10月26日 誕生 宝永4年(1707年)6月8日 死去	本光院常務居士	76歳	
29代	真純	隆 宗信 十左衛門 藤十郎 惣左衛門 愚閑	延宝3年(1675年)1月29日 誕生 元文5年(1740年)8月13日 死去	本照院宗榮	66歳	
30代	時雄	隆兼 真雄 新蔵 七兵衛	宝永7年(1710年)8月6日 誕生 安永5年(1776年)8月5日 死去	遠照院一法日領居士	67歳	上妻家住宅上棟。
31代	宗弘	真之 藤十郎 惣左工門 七兵衛	寛延3年(1750年)1月24日 誕生 享和2年(1802年)10月1日 死去	志徳院慈圓日行居士	53歳	
32代	宗愛	新蔵 惣左衛門 七兵衛	安永5年(1776年)4月17日 誕生 文政3年(1820年)2月16日 死去	晴両院蓮乗日詠居士	45歳	
33代	右武	宗玄 真英 藤十郎 七兵衛 隼多	享和3年(1803年)3月22日 誕生 文政12年(1829年)6月11日 死去	閑林院日遊居士	27歳	
34代	宗徳	七二郎 七兵衛	文化9年(1812年)5月14日 誕生 安政5年(1858年)8月17日 死去	園林院日詠居士	47歳	
35代	宗恕	惣左衛門	嘉永5年(1852年)5月11日 誕生 明治27年(1894年)9月19日 死去		43歳	
36代	宗之		明治4年(1871年)12月16日 誕生 昭和30年(1955年)11月2日 死去		85歳	
37代	良三郎		大正4年(1915年)6月18日 誕生			
38代	宗長		昭和16年(1941年)3月10日 誕生			鹿児島市在住

## 国登録文化財建造物に登録

国土の歴史的景観に寄与し、地域の歴史上、その文化財的価値が評価され、平成29年5月2日、旧上妻家住宅主屋・門が熊毛地区では初の国登録文化財となる。



# 上妻家住宅の特徴

## 「建築年代」

屋敷内で、発見された棟札により、江戸時代中期 寛延4年(1751年)に、建てられたことが判明した。年代がわかる住宅としては、島内最古級。

## 「主屋」

建物内部の主要部分は建築当初の状態をとどめる。床の間付き表座敷「和室8.0帖」の床の間の壁は板壁で、種子島特有のものである。

## 「門」

主柱(通常は鏡柱と呼称)を磨き丸太とする腕木門であり、鹿児島県内唯一と考えられる丸太造りの武家門である。



# 旧上妻家住宅主屋



床面積 209.72㎡ (63.55坪)



# 266年前の棟札見つかる

## 西之表の文化財・旧上妻家住宅

国登録有形文化財の西之表市の武家屋敷「旧上妻家住宅」で5月中旬、江戸中期の建坪を呈する棟札が見つかった。幕末とされた推定年代より約100年さかのぼり、266年前の「寛政四年（1793年）」と記されている。市で文化財登録を記念して6月3、10日に同住宅を公開し、武具や古文書の一部とともに展示する。

## 建築年 推定より100年古く

### 3〜10日公開

上妻家は幕末を境として、床の間が板壁と種子島家の兼頭家号、子島特有の造りで、棟住宅は木造一部2階建。内唯一の丸太造りの武



「寛政四年」の文字が確認できる棟札。西之表市の旧上妻家住宅

家間が残る点が評価された。敷居からかまひまでの高さなどで幕末に建ったと推えられていたが、市指定文化財の種子島家住宅「月亭亭」（1793年）より古いとみられる。

昨年、登録申請前に大黒柱を調べた際には、棟札はなく、公開準備中に屋根裏で見つかった。幅12・8センチ、長さ54・5センチの棟札は、施



国登録有形文化財「旧上妻家住宅」

主「上妻七兵衛真雄」の名が読み取れる。江戸時代以前のものを言わぬ大黒の古文書も新たに確認。鉄砲伝来当時の島主・種子島時盛が受けたたりの免状の巻物（天文20年＝1551年）も出てきた。

種子島開発総合センター（鉄砲館）の敷地内タテ1（住宅）は「住宅はもつと古いのでは」と思っていたが、それが裏付けられた。古文書は種子島家の記録にない事柄が分かり、郷土史研究にとって貴重」と話している。

市は昨年、同住宅を2900万円で購入した。保存活用策を検討し、文化・観光施設として整備する計画。鉄砲館（00077-2）  
3215。（山本輝志）

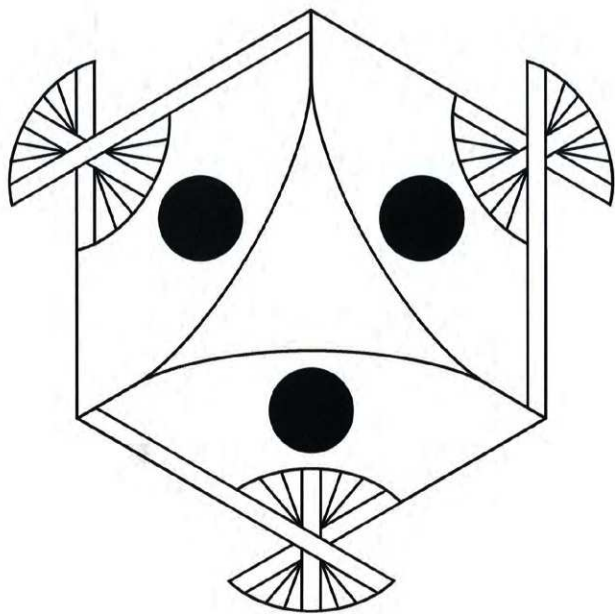






如風於空山  
維時寬延四年  
未歲二月大吉  
一如無障礙

37  
38  
39  
40  
41  
42  
43  
44  
45  
46  
47  
48  
49  
50  
51  
52  
53  
54  
55  
56  
57  
58  
59  
60  
61  
62  
63  
64  
65  
66  
67  
68  
69  
70  
71  
72  
73  
74  
75  
76  
77  
78  
79  
80  
81  
82  
83  
84  
85  
86  
87  
88  
89  
90  
91  
92  
93  
94  
95  
96  
97  
98  
99  
100  
101





No. 1

上妻家文書展開催状況

令和元年7月27日～9月24日

会場 種子島開発総合センター

---

---

---

---

---

---

---

---



No. 2

---

---

---

---

---

---

---

---



No. 3

---

---

---

---

---

---

---

---



No. 4

---

---

---

---

---

---

---

---



No. 5

---

---

---

---

---

---

---

---



No. 6

---

---

---

---

---

---

---

---



No. 7

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---



No. 8

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---



No. 9

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---



No. 10

---

---

---

---

---

---

---

---



No. 11

---

---

---

---

---

---

---

---



No. 12

---

---

---

---

---

---

---

---